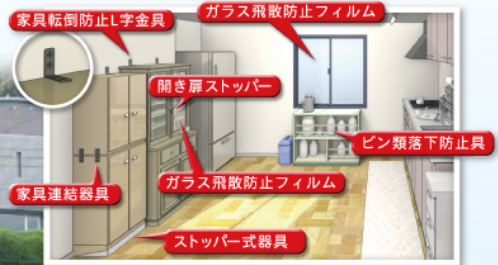


なぜ、

地震対策が必要なのか

生活の継続・早期再開のために

監修：筑波大学名誉教授 梶 秀樹



考えていますか?
地震後の生活



家族の死傷と生活の再建	
死傷の程度	再建可能性
死者が出た	× 再建不能
重傷または中等傷	▲ 遺族のため大幅な遅延
けが人が出た	○ 若干の遅延
軽傷	◎ 甚後から再建可能
無傷	



筑波大学名誉教授
梶 秀樹 先生

20分 / DVD 60,000円 (本体価格)



株式会社 教配
URL: <http://www.kyohai.co.jp>

〒190-0012
東京都立川市曙町2-36-2 ファーレ立川センタースクエア
TEL 042-518-9774 (代) FAX 042-518-9785

なぜ、地震対策が必要なのか

生活の継続・
早期再開のために

大震災から数年が経ち、防災意識が薄れ始めた家族が、地震対策に取り組むまでの様子をドラマ形式で説明していきます。

「どうすれば生活を継続できるか?」「いかに早く普段の生活を取り戻すか?」という観点から、専門家の解説を交え、地震対策の必要性を訴えます。

〈あらすじ〉

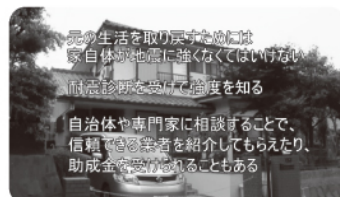
久しぶりに兄（山川春雄）の家を訪ねた秋夫。地震対策を何もしていないことに気づき、自身の被災した体験を元に「生き残る人の方が多いこと」「生き残ってからの生活が大変なこと」「だからこそ生活の継続・早期復旧のための備えが必要なこと」を話します。秋夫の話に徐々に耳を傾ける春雄。山川家の地震対策が少しずつ動き出します。



耐震補強

- ・自宅が使え、自宅での生活を続けながら復旧を待つ
- ・建物の損傷が大きいほど、生活の再建に時間がかかる

建物損傷程度と生活再建までの経緯			
地震後年数	半年程度	1～2年程度	それ以上
○無害	自宅生活継続		
○一部損壊	自宅生活 修理	自宅生活	
△半壊	避難所生活等 修理		自宅復帰
×全壊または 焼失	避難所生活等	仮設住宅生活	災害復興住宅 自力再建



家具の固定

- ・家族の無事、無傷が大前提
- ・死傷の程度が大きいほど、生活の再建が困難



火を出さない

- ・通電火災を防ぐ
- ・ブレーカーを落とす
- ・自宅が燃えてしまったら、再建は非常に困難



備蓄品

- ・水や食料などの備蓄品はなるべく多く備えておく
- ・自治体の支援がすぐには受けられないこともある



撮影協力: 日野市 / NPO法人 日野映像支援隊

震災資料協力: 一般財団法人 みやぎ産業交流センター / 一般社団法人 日本損害保険協会 / 神戸市

企画・製作・発売元 株式会社 教配

2013年作品

●お申し込み・お問い合わせ